

公の施設の指定管理者における業務状況評価書

平成28年9月15日

施設名	県民文化ホール	所管課	文化生活部文化推進課
-----	---------	-----	------------

1 施設の概要

指定管理者名	高知県立県民文化ホール共同企業体	指定期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日
施設所在地	高知市本町4-3-30		
事業内容	県民の明るく豊かな文化生活の向上に寄与するための文化事業の実施、及び音楽、演劇その他の催しのための場の提供を行う。 ・施設利用の許可等 ・ホール事業の企画等 ・施設及び設備の管理 ・その他ホールの設置の目的を達成するための業務		
施設内容	<建物>延べ床面積:11,842.77㎡ 鉄筋コンクリート(一部鉄骨)地下1階地上4階 <土地> 5,288.15㎡ <主要施設> 大ホール(1507席)、小ホール(500席)、楽屋、リハーサル室、多目的室など <開館時間>午前9時～午後10時 <休館日> 12月27日～1月1日 <主な料金> ホール・多目的室は午前・午後・夜間・全日の別で料金設定		
職員体制	常勤職員: 16人 契約職員: 6人 非常勤: 2人 合計: 24人		

※職員数は平成27年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成26年度(決算)	平成27年度(決算)	平成28年度(予算)
収入	県支出金	110,103	110,103	117,825
	事業収入	109,367	118,244	116,480
	その他	3,409	4,419	10,656
	収入計(a)	222,879	232,766	244,961
支出	事業費	222,975	226,087	244,961
	(うち人件費)	(126,863)	(128,445)	(117,504)
	その他	0	0	0
	支出計(b)	222,975	226,087	244,961
収支差額 (a)-(b)		-96	6,679	0

※平成26年度(予算)は高知県立県民文化ホール共同企業体の予算

3 利用状況

	平成26年度(実績)	平成27年度(実績)	前年度比
① 年間利用者数 (単位:人)	オレンジ 191,320人	オレンジ 182,090人	- 9,230人
	グリーン 49,393人	グリーン 48,440人	- 953人
	計 240,713人	計 230,530人	- 10,183人
	<利用実績> 平成27年度は、両ホールの吊物更新工事に伴う閉館があったため入場者数に減が生じている。 (※オレンジホール開館日数: 314日 対前年度27日減、グリーンホール 開館日数 325日 対前年度17日減)		

<p>② 利用者意見等の反映</p>	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <p>①ホール・多目的室利用者アンケート 実施時期＝26年度1年間 実施方法＝使用者様を対象に料金別納葉書のアンケート用紙で後日返送依頼 回答数＝オレンジ24、グリーン20、多目的室5 回答内容＝使用ジャンル、過去利用回数ほか 主な自由筆記＝空調温度、ピアノ椅子の不調、トイレの増設、壁時計設置ほか</p> <p>②自主事業鑑賞者アンケート 実施時期＝26年度4月～ 実施方法＝鑑賞者入場時に手渡し、退場時に回収 回答数＝各自主事業平均回答数約250 回答内容＝性別、年代、居住地域、来場動機、鑑賞希望ジャンルほか</p> <p>③一般来場者アンケート 実施時期＝26年度4月～ 実施方法＝両ホールロビーおよび事務棟1階に鍵付き投函ボックス設置による 回答数＝4 回答内容＝フリー 主な自由筆記＝空調温度について</p> <hr/> <p>○ 利用者意見等を踏まえた対策</p> <p>空調温度は即時対処。ピアノ椅子不具合など故障や破損に関する内容は、その都度修繕、更新等で対処。壁時計などは新設設置。建築工事を伴うものは未対処。緊急性、深刻性があると思われる場合は文化推進課に相談。鑑賞希望ジャンルは、自主事業企画時の検討材料としている。</p> <hr/> <p>○ その他</p>
<p>③ その他特記事項</p>	

4 県の要求水準に対する評価

要求水準 1

施設及び設備の維持管理を適切に行い、安全かつ快適な利用環境を提供する

評価項目

(1) 施設及び設備の保守点検等を適切に行うとともに、安全管理を適切に行い、故障や事故のない運営を行う。

- ・点検、修繕の実績
- ・業務委託の状況

評価項目

(2) 災害発生時における利用者の避難その他の応急対策、及び津波避難ビルとして一時的に避難者を受け入れることについてあらかじめ検討し、必要な対策を講じる。

- ・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策
- ・マニュアルの作成
- ・職員研修

状況説明

- ・施設、設備の保守点検等は、法定点検回数を遵守し適切に行った。
- ・利用者に怪我等が発生しないよう、適宜館内を巡回し管理した。
- ・避難誘導訓練は年2回行い、消防計画に沿った避難誘導を実施し全スタッフに理解を図った。
- ・主催者への避難経路確認依頼など受付対応時から利用者の意識が高まるよう努力している
- ・津波避難ビル及び避難所として、台風接近時や暴風雨警報時の連絡態勢を全スタッフで再確認し、高知市地域防災推進課と有事の際の行動確認を行った。

評価	理由
B	適切な施設及び設備の維持管理を行い、安全かつ快適な利用環境の提供に努めていることが認められる。

要求水準 2

利用者の満足度を高める運営により、施設利用の促進を図る

<p>評価項目</p> <p>(1) 文化団体等が自ら行う音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、演芸その他の芸術及び芸能の公演・発表や練習の場として、またその他の文化活動の日常の活動拠点として利用しやすい運営を行い、県民の芸術文化活動の拠点施設としての利用を促進する。</p>
<p>評価項目</p> <p>(2) 民間興行による公演、各種団体の会議その他の催し物の用に供する施設として、主催者が希望する施設の利用形態に応じて、利用しやすい環境とサービスを提供することにより、施設利用率の向上に努める。</p>
<p>評価項目</p> <p>(3) 利用者のニーズや評価等に関する調査・分析を行い、その結果を生かして、施設の機能強化やサービス改善に努める。</p>

状 況 説 明
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に行われている公演、発表会等の芸術文化活動の場として、継続的な利用がされた。 ・施設の貸出業務では、主催者側の要望に柔軟な対応を図り、受け入れ不可能な要望については代案を提案するなど迅速で丁寧な対応に努めた。 ・大型車両を何台も要する公演が両ホール同時に入ることもあるが、荷下ろし時間の調整など混乱なく運営できている。 ・多目的室の利用促進のためテレビ・ラジオによるスポット告知を継続して実施した。 ・両ホールの吊物更新工事により開館日数は減ったものの、利用率は全て26年度を上回った。 ・自主事業の来場者に対しアンケート調査を行い、公演情報収集先、来場手段、料金設定、来場動機、スタッフ態度、公演希望ジャンルなどの調査及び分析を行った。また、アンケートの回収率向上のため、記入用鉛筆を添え、退場時にスタッフが声掛けをしたことにより、年度前半の回収率が平均25%であったものが後半は平均55%までアップした。 ・ホール利用者(公演主催者)へのアンケートは、料金受取人払郵便はがきを用い、ホール別の通算利用回数、施設・備品・料金設定などに加えて、問い合わせ時、打ち合わせ時、利用日当日のスタッフ対応を調査した。 ・スタッフの対応について、来場者にとっては「大変よい」と「よい」を合わせると7割を超え、利用者にとっては「大変感じがいい・わかりやすい」が7割を超え、「まあまあ感じがいい・わかりやすい」を加えると約9割となった。 ・来場者アンケートを分析した結果、情報収集ツールとして親子連れはテレビ、高齢者は新聞と顕著に違いが表れた。結果、公演内容に合わせたより効果的な告知展開が可能となる。

評 価	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・大小ホールそれぞれの規模にふさわしい多彩な芸術文化公演が企画、実施され、県民の芸術文化活動の拠点施設として、利用者の立場に立ち、利用しやすい環境とサービスに努めるとともに、その利用促進のための情報発信を行うなど利用率向上に努めていることが認められる。 ・来場者、利用者に分けてアンケートを行い、調査結果を更なるサービス改善などに活かすことに努めていることが認められる。 ・スタッフによる対応は適切に行われたと認められる。

要求水準 3

質の高い芸術文化公演の企画・実施により、県民に優れた芸術鑑賞の機会を提供する

<p>評価項目</p> <p>(1) 地域の芸術文化の広域拠点施設として、大ホール及び小ホールそれぞれの規模にふさわしい音楽や舞台芸術などの公演を自主的に企画し、実施する。</p>
<p>評価項目</p> <p>(2) 県民の多種多様な鑑賞ニーズに応えるため、幅広いジャンルから上質な作品をバランスよく上演する。</p>

状 況 説 明
<p>自主事業は、親子で楽しめるもの、世界的人気を誇るピアニスト＝フジコ・ヘミング、高齢者に懐かしい吉田正オーケストラ、寄席など、幅広い年代を対象とし多種多様な芸術鑑賞の機会を提供した。また、地方公演の頻度の少ない演者も呼ぶことができた。</p> <p>自主事業の本数は事業計画より7本多い19本を実施し、入場者数の合計は12,000人と事業計画の目標人数7,500人を大きく上回った。</p> <p><自主事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽吹奏楽声楽:「第39回高知県新人演奏会」(小ホール)(200人) ・器 楽:「フジコ・ヘミング&ヴァスコ・ヴァッシレフ コンサート」(大ホール)(1,500人) <li style="padding-left: 40px;">「新垣隆 音楽何でもやります コンサート」(大ホール)(490人) <li style="padding-left: 40px;">「みんなのうたコンサート」(大ホール)(310人) <li style="padding-left: 40px;">「スギテツ大音楽会～TOUR2016・みんなでブラボー！～高知公演」(小ホール)(190人) ・軽音楽:「ザッハトルテ コンサートツアー2015」(小ホール)(380人) <li style="padding-left: 40px;">「キセル ワンマンライブ」(小ホール)(130人) <li style="padding-left: 40px;">「明和電機メカニカルミュージカル」(小ホール)(620人) <li style="padding-left: 40px;">「シャーロット・ケイト・フォックス ファーストコンサート」(大ホール)(670人) ・人形劇:「三國志」(小ホール)(330人) ・講演会:「江原啓之講演会」(大ホール)(1,260人) ・落 語:「月亭八方一門会」(大ホール)(350人) <li style="padding-left: 40px;">「立川談春 独演会 2106」(大ホール)(1,500人) ・演 劇:「ヨーロッパ企画第34回公演『遊星ブンボーグの接近』」(小ホール)(320人) ・オーケストラ:「吉田正記念オーケストラ」(大ホール)(790人) <li style="padding-left: 40px;">「高知ジュニアオーケストラ 第4回定期演奏会」(小ホール)(450人) ・舞 踏:「タンゴ・ロマンス」(大ホール)(620人) ・歌謡ショー:「BS新・日本のうた 公開録画」(大ホール)(1,240人) ・映 画:「県民が選ぶ映画ベストテン 上映会」(小ホール)(650人)

評 価	理 由
A	<p>大小ホールそれぞれの規模にふさわしい質の高い芸術文化公演が企画・実施され、また、アンケート分析による年代のニーズに見合う告知展開を行うことにより、県民に優れた芸術の鑑賞機会を数多く提供したと認められる。</p>

要求水準 4

地域の創造力の向上に向けて、芸術文化を担う人材を育成する

評価項目

(1) 自主企画により上演される作品等をテーマや素材にして、芸術文化への関心を高め、理解を深めていく事業を行い、芸術文化振興の担い手となる観客を育成するよう努める。

評価項目

(2) 学校その他の教育機関で、音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、演芸その他の芸術及び芸能の実演又は舞台設備、舞台音響、舞台照明等の効果的な運用操作などの舞台芸術に関する活動を行っている児童生徒を対象に、講習会の開催や発表機会の提供等を行い、次代の芸術文化を担う人材を育成するよう努める。

評価項目

(3) 指定管理者の自主事業として運営されているジュニアオーケストラの活動を継続し、芸術文化を通して青少年の健全育成を図るとともに、育成のための支援体制を充実させることにより、オーケストラとしてのレベルアップに努める。

状況説明

- ・親子で楽しめる現代アート系公演やクラシックを親しみやすくアピールする演奏会など、舞台芸術に触れられる機会を提供した。
- ・世界的ピアニストの公演は、反響が大きく会場は満員となった。子供から大人まで県下のピアニストたちにいい刺激を与えたと思う。
- ・高知県高等学校演劇部夏季舞台技術講習を26年度に引き続き開催し、次代の芸術文化を担う人材の育成に努めた。
 - *プロの劇団員による演劇表現と県民文化ホール技術職員による舞台技術の講義
 - *参加者をチームに分け、チームごとに台本の無いエチュードで芝居を作り上げる
 - *各チームにプロ劇団員からのマンツーマン指導
- ・ジュニアオーケストラの定期演奏会において、附属小と小高坂小合唱部との共演を行った。
- ・26年度から行っているジュニアオーケストラの団員資格年齢枠の拡大を維持し、増員策を続けている。音楽監督を高知在住の大学教授(作曲家)と交代し、講師も増員するなど、体制の強化を図った。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・自主企画事業において、プロの生演奏を体験できる機会や日本の伝統文化に触れる機会等を提供し、芸術文化振興の担い手となる観客の育成に努めたと認められる。 ・高等学校演劇部舞台技術講習により次代の芸術文化を担う人材の育成に努めたと認められる。 ・ジュニアオーケストラの体制強化に努めるとともに、他校児童との音楽交流を行う等、青少年の健全育成とレベルアップに努めたことが認められる。 ・県の中核施設として、音楽や演劇だけではなく、できるだけ幅広い分野において他のホール施設と連携して、次世代の育成に努めて欲しい。

要求水準 5

関係機関等との連携・協力により、芸術文化の振興を図る

評価項目

(1) 芸術文化団体が企画する県民参加型の事業や、鑑賞団体が企画する一般の観客を対象とした公演を共催で実施するなど、県民の自主的な芸術文化の振興活動と連携・協力することにより、県民の芸術文化活動への参加の促進や、県民が優れた公演等を鑑賞する機会の拡大に努める。

評価項目

(2) 学校その他の教育機関及び芸術文化教育の推進を目的とする団体等との連携・協力により、児童生徒に対して質の高い芸術文化に触れる機会を提供する。

評価項目

(3) 県内の他のホールの職員等を対象に、ホールの企画運営や舞台技術に関する実践的な知識及び技術を習得するための研修の機会や、共同開催の公演を実施することによる企画運営ノウハウの移転の機会を設けることによって、地域のホール運営の専門性向上に努める。

状況説明

- ・日本トップレベルを誇るNHK交響楽団の公演など、県民に優れた公演の鑑賞機会を提供した。
- ・ポーランド管弦楽団「第8回新しいピアノコンチェルトとの夢の出会い」においては、高知県ピアノ指導者協会を支援することにより、ピアノを習う子供たちの技術向上に貢献した。
- ・福島原発事故ドキュメンタリー映画会においては、企画段階から県立大学の団体を支援した。
- ・県内高校吹奏楽部や大学から選抜された部員が合宿形式で練習を積んで定期演奏会を行う「スーパーハイスクールブラス演奏会」を支援し、若い世代の芸術文化活動の参加を促進した。

<共催事業>

- ・歌舞伎:「市川海老蔵特別公演『源氏物語』」(大ホール)(1,500人)
- ・オーケストラ:「佐渡裕指揮 兵庫芸術文化センター管弦楽団創立10周年記念ツアー」
(大ホール)(1,300人)
- 「ディズニー・オン・クラシック まほうの夜の音楽会2015」(大ホール)(1,400人)
- 「NHK交響楽団演奏会 高知公演」(大ホール)(1,500人)
- ・歌謡ショー:「ディズニーライブ! ミッキー&ミニーのスターをさがせ!」
(大ホール)(4,100人:4回公演)
- ・軽音楽:「B'z LIVE-GYM2015」(大ホール)(1,500人)
- 「THE GAMARJOBAT COMPANY 1st JAPAN TOUR」(大ホール)(1,000人)
- ・音楽劇:「お嬢さんお手上げだ・明治編」(小ホール)(800人)
- ・ミュージカル:「2015年土佐弁ミュージカル『土佐の魔法使い』」(小ホール)(450人)
- ・器楽:「第8回新しいピアノコンチェルトとの夢の出会い 高知公演」(大ホール)(1,000人)
- ・吹奏楽:「第11回スーパーハイスクールブラス」(大ホール)(700人)
- ・映画:「シネマフィロソフィア3.11上映会『フタバから遠く離れて 第二部』」(小ホール)(300人)

- ・現代アート系ユニット「明和電機」主宰を講師に、親子連れを対象とした創作楽器作成のワークショップ、アーティストの成功事例をテーマにした講義を実施した。
- ・児童施設にパフォーマーアーティストを派遣し、生の舞台芸術に触れる機会を提供した。
- ・室戸市のホールに出向き、30人を対象に舞台技術の講習会を5日間行った。
- ・全国公立文化施設協会専務理事を講師に、県内の他のホール職員を対象に、文化施設の役割や文化芸術振興基本法、劇場法などの基礎知識を学ぶ機会を提供し、地域のホール運営の専門性向上に努めた。

・地域のホールで上映している「県民が選ぶ映画ベストテン」について、県西部（土佐清水市立市民文化会館）と東部（田野町ふれあいセンター）を含めた3会場で開催した。

評 価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none">・共催事業12本の入場者数は、前年度より5,000人増え15,550人となっており、県民の芸術文化活動への参加の促進や、県民が優れた公演等を鑑賞する機会の拡大に努めていることが認められる。・団体等との連携・協力により、児童生徒に対して質の高い芸術文化に触れる機会を提供したことが認められる。・研修を開催し、また、事業を連携して実施することで企画・運営ノウハウの移転の機会を設けるなど、地域のホール運営の専門性向上に努めたことが認められる。

その他

評価項目

(1) 社会的責任

- ・法令等の遵守
- ・個人情報
- ・情報公開の状況

状況説明

- ・高知県立県民文化ホールの設置及び管理に関する条例、高知県立県民文化ホールの設置及び管理に関する条例施行規則、内規等に基づく運営管理業務を行った。
- ・『同じ事例には同じ対応』に努めた。
- ・個人情報保護に関しては、平成26年4月1日から利用者の個人情報を扱う受付管理システムをインターネット環境から遮断しているほか、職員以外の事務所内入場可能区域を受付カウンターまでとし、事務所が開いている間は必ずスタッフが駐在することとしている。
- ・事業部門のパソコンはネット環境にあるが、ウィルス感染対策として本社から管理されたUSBメモリー以外は接続できない設定とした。

評価	理由
B	適正な管理運営が遂行されたと認められる。

評価項目

(2) 利用実績

利用実績の状況： ・利用状況の分析

状況説明

区分		26年度	27年度	前年度比
オレンジホール (大ホール)	開館日数	341日	314日	△27 吊物更新工事に伴う閉館があったため
	利用日数	226日	225日	△1
	利用率	66.3%	71.7%	5.4
	利用件数	166件	165件	△1
	入場者数	191,320人	182,090人	△9,230
グリーンホール (小ホール)	開館日数	342日	325日	△17 吊物更新工事に伴う閉館があったため
	利用日数	228日	235日	7
	利用率	66.7%	72.3%	5.6
	利用件数	206件	208件	2
	入場者数	49,393人	48,440人	△953
多目的室	延べ開館日数	3,949日	3,960日	11
	延べ利用日数	1,951日	2,278日	327
	延べ利用率	49.4%	57.5%	8.1
	利用人数	71,533人	81,778人	10,245

評価	理由
B	両ホールの吊物更新工事に伴う閉館があったため入場者数に減が生じているが、多目的室の利用促進の取り組みの成果も現れ、適正な管理運営がされたと認められる。

評価項目

(3) 収支の状況

経営努力: ・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明

- ・収入の合計は1億2千万円を超え前年度比約109%であった。
- ・鑑賞事業の入場料収入が2千万円を超え、前年度比約185%となった。
- ・両ホールにおける利用料金収入は吊物更新工事に伴う閉館があり前年より落ちたものの、多目的室の使用料収入が、前年度比118%となり約307万円の増収となった。
- ・予算を上回った収入を原資に、新たな自主事業を実施した。

評価	理由
A	吊物更新工事に伴う閉館があったものの、多目的室の活用促進等の経営努力を行い、予算を上回った収入を原資に新たな自主事業を実施するなど、積極的な管理運営がされたと認められる。

総合評価

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の芸術文化活動の拠点施設として、利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、その利用を促進した。 ・幅広いジャンルの自主事業を行い、自主事業の入場者数は目標に対し約142%の実績であった。 ・児童生徒に対して質の高い芸術文化に触れる機会を提供した。 ・収入の合計は前年度比約109%、前々年度比約99%となった。 ・多目的室の使用料収入が、前年度比118%となった。 <p>上記により、概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。